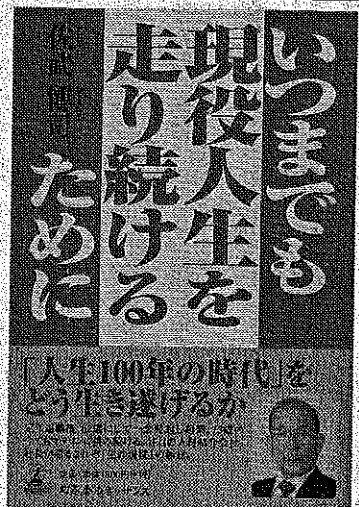


「いつまでも現役人生を」

田辺市出身 定年後生活の極意語る 佐武さん著

田辺市出身で、東京都港区と大阪市で人材紹介会社を営んでいる佐武博司さん(73)が「いつまでも現役人生を走り続けるために」(四六判、207頁、1365円)『写真』を幻冬舎ルネッサンス(東京都港区)から出版した。自身のビジネスマン時代の経験や趣味のマラソンなどを運じて感じたことをまとめている。



佐武さんは定年退職後、暇を持て余すことに危機感が募り、再就職を考へるようになった。マラソンを続けていたことから、当時テレビで見たアトラシタ五輪で、有森裕子選手の姿に感動をしたことが、再就職に踏み切る一因になったかもしれないと振り返る。

人材紹介会社に再就職したが、手紙の宛名書きに明け暮れる中で、自分の経験が生かされていない仕事に疑問を感じたという。

自身の手掛けた人材紹介の実例を元に、転職には自身の能力を把握し、スキルアップを目指すことが重要だと書いていく。良い環境や待遇だけを求めて、十分な経験を積まないうちに転職に臨んでも、長続きしない印象などマイナス評価が残るだけという。3年間の技術や知識が身に付く目安だとし、我慢することが重要だと説いている。

企業側が求める人材として、能力や可能性が重視されることを挙げていく。簿記検定など資格は、知識や実務の適性を証明できる1級の取得を勧めている。例えば企業が希望する資格がなくても、いままで携わってきた仕事の経験を生かし、転職先で成長が図れることや、新たな分野の開拓を提案すれば、チャンスをつかむことができるという。

定年前、縦関係の会社で株式公開の準備作業に携わり、会社の過去を振り返ったり問題点を洗い出したりする作業を経験したことから、株式公開のコンサルタントな自分の能力を十分に生かした仕事ができると考え、専門の人材紹介会社

を夢見ていたことを思い出し、その夢がサラリーマン人生の「先導役」になったと振り返る。

続けているマラソンは、走ることでリフレッシュになり、マラソンを通して培った根気や体力、得た感動が仕事を充実させてきたことを紹介している。

大手企業などを退職してから、新たな仕事に取り組み起業家らの座談、寄稿も収録している。その

故郷の田辺市について、海と山に挟まれた土地柄であることから、少年時代から「海外雄飛」

れぞれが経験した人生や仕事を振り返り、人生設計やキャリアデザインの重要性を訴えている。